

保手濱 拓さん (現代美術/山口県山口市)



【経歴】(2022年4月現在)

兵庫県西宮市生まれ 山口市在住
 1998年 九州産業大学芸術学部美術学科入学
 (のち退学)
 2000年 独学で作品制作を開始
 2005年 東京・福岡を経て活動拠点を山口に移す

【受賞歴ほか】

2006年 山口県美術展覧会 佳作
 2009年 神戸ピエンナーレ
 アーティストックフォトコンペティション
 銅賞
 2009年 まどみちお詩集「のぼりくだりの…」(理論社)
 の挿絵担当
 2011年 山口県美術展覧会 佳作
 2011年 詩集「美しさのまわり」出版
 2012年 第4回やまぐち新進アーティスト大賞
 2012年 アンソロジー2冊の挿絵担当
 2016年 山口県美術展覧会 大賞
 2017年 mon Sakataの服とバッグのデザイン原画
 制作
 2021年 やまぐちプレミアム共通商品券に作品提供

保手濱拓氏は、九州産業大学芸術学部美術学科に入学後、自主退学し、独学で美術作品の制作・発表を続けている作家である。

木版画、ドローイング、写真などで自然をテーマに制作し、地元の画廊や秋吉台国際芸術村、山口県美術展覧会で発表を重ねてきた。とくに2016年の第70回山口県美術展覧会で大賞を受賞した作品は、審査員の佐藤時啓氏(東京藝術大学教授)や島敦彦氏(愛知県美術館館長)の高い評価を得た。

自宅近くの海、山、川で植物や生物や鉱物などをモチーフとして作品化する保手濱氏の独特な世界は、全国各地の画廊での展示も開催されるなど、確実に認知されつつある。また、詩人まどみちおの100歳詩集『のぼりくだりの…』、アンソロジー『草にすわる』と『やさしいけしき』(いずれも理論社)の挿絵に採用されたり、mon Sakata(目白)の服とバッグのデザインにも採用されているなど、美術の分野を越えて評価が広がりつつある。

なお、現在、広島の人気陶芸家寒川義雄氏との器と絵のコラボレーションシリーズの制作、東京都世田谷区の人気飲食店「ごはん屋ヒバリ」の新しい包装用紙のための作品制作が現在進行中であることに加え、自身の作品集「海の時間」の出版予定もある。

地方の故郷である山口で生活し、作品を制作し続けているアーティストの存在は、地方文化の活性化に直結している。さまざまな領域に関わりながら独自の世界を展開しはじめた保手濱氏の今後のさらなる活躍が期待される。

受賞の言葉

この度は身に余る輝かしい賞を頂戴し誠にありがとうございます。

長引くコロナ禍や世界の不安定な状況下にあって、アーティストとしても活動の難しさを感じる中、大変励みになると同時に身の引き締まる思いです。

日頃の制作活動では表現の種(源)になるものに出会うため、身近な自然の中に入り身を置く時間を作るよう意識的に心掛けております。

二十年余りとなる制作活動の中では、四季と共に移り変わる草花の様子をスケッチし、花の咲く時期や期間を調べ、各地の砂浜をまわり石や貝殻を拾い歩いたり、一日に打ち寄せる波の回数を数えてみるなど、自分自身の目で、心で表現の対象と向き合うことを大切に遅々とした歩みで活動して参りました。

このような賞を頂戴し、遠回りのように思える時間の中で目にしたのも経験も無駄ではなかったと背中を押していただいたように感じられ、大変嬉しく存じます。

この受賞を励みとしてより一層精進し、挑戦して参ります。

最後になりましたが、このような成長の機会を与えて下さった関係各位の皆さまに心より感謝申し上げます。



「memento/ゲンバユズナ(部分) 2016年
 立体・平面作品によるインスタレーション
 紙・ペン・植物 (第70回山口県美術展覧会 大賞)



「ポピー畑」2013年 水彩・紙
 210mm×310mm



「ハナホタル」2018年 水彩・紙
 300mm×210mm